

悪い製品がよい製品を駆逐？

酒井 寿紀 (さかい としのり) 酒井 IT ビジネス研究所

メール・クライアントを切り替えた ら・・・

ユーザー数がどんどん増えて、現在広く一般に使われている製品は、ユーザー数が減少し世の中から消え去りつつある製品より、機能や使い勝手の面で優れているはずだと誰でも思う。しかし、IT の世界では、現実はずしもそうではない。最近小生が身を持って体験した例をご紹介します。

インターネットのメールをパソコンで処理するソフトはメール・クライアント、メール・ソフト、メーラーなどと呼ばれ、現在、世界中でマイクロソフトの Outlook Express が最もよく使われている。インターネットの初期には、ネットスケープ社の Netscape (Netscape Navigator、Netscape Communicator、Netscape と名前が変わったが、ここでは Netscape と総称) が多くの人に使われていたが、その後、ユーザーが減り、メール・クライアントとしては 2002 年にリリースされたものが最後になった。

小生は、Netscape を 1996 年以来使い続けてきた。今まで特に不便を感じなかったためと、切り替えの手間、新旧メール・クライアントを使い分ける不便を避けるためである。しかし、最近スパムメールの処理などで不都合が増えたため、Outlook Express に切り替えた。2001 年に Windows XP と共にリリースされた Version 6 という、近年広く一般に使われているものにしたので、今まで Netscape でできたことは Outlook Express でもできるだろうと思っていた。しかし、この期待は見事に裏切られた。主な問題をご紹介します。

まず、「マルチアカウント」に対する配慮が足りない。会社用と個人用、複数のプロバイダの使い分けなどで複数のメールアドレスを持っている人、つまりアカウントを複数使

っている人は多いはずだ。こういう人は、受信や送信したメールをアカウント別に管理したい。ところが、Outlook Express ではこれができる。受信メールのフォルダの下に、アカウントごとのサブフォルダを定義すれば、受信メールは自動的に振り分けてくれるが、送信メールは、サブフォルダに手作業で移す必要がある。また、他のソフトが検出したスパムメールを自動的にスパム用フォルダに移す機能があるが、受信メールをサブフォルダに振り分けるようにすると、スパム用フォルダには自動的に移されず、毎回手作業が必要になる。

そして、「テンプレート」が扱えない。業務連絡や同好会の案内などで、決まった形式のメールをしょっちゅう送信するとき、定型文をテンプレートとして登録しておくことができれば、追加箇所だけ記入して送信メールを作成できるので便利だ。Netscape にはこのような機能があるが、Outlook Express にはない。小生は、テンプレート用のフォルダを作って、そこに「下書き」フォルダ経由でテンプレートを保存し、それを使うときは保存してあるテンプレートを再度「下書き」フォルダにコピーするという面倒な方法で何とか間に合わせている。

また、「エクスポート」、「インポート」の機能も不完全である。アドレス帳をフォルダによってグループ分けしているとき、エクスポート／インポート機能で別のパソコンに移すと、グループ分けがなくなって一つになってしまう。

これらの問題に対し、インターネットにはいろいろな代替手段が掲載されているようなので、不便を感じている人が多いのだろう。最新版や上位製品では解決されているのかもしれないが、このように、市場を制覇している製品が市場から消え去りつつある製品に及

ばないのが現実である。

他の製品についても

このような問題はメール・クライアントに限らない。ウェブを閲覧するブラウザについても、以前は Netscape が主流であったが、現在はマイクロソフトの Internet Explorer が圧倒的なシェアを占めている。しかし、ウェブの画面を印刷するとき、Netscape できちんと印刷できても Internet Explorer では右端の文字が欠けてしまうことがある。日本の金融機関のオンラインサイトには、Internet Explorer しか使えないところが出てきたため、小生も数年前からこれを使い出したが、前述のような問題があるため、いまだに Netscape を併用している。

また、古い話になるが、ワープロ・ソフトとして、米国では 1980 年代後半には WordPerfect が最も評判がよく、広く使われていた。しかし 1990 年代に入って、マイクロソフトがワープロ・ソフトの Word を表計算ソフト、プレゼンテーション・ソフトなどと合わせて提供するようになると、次第にシェアを失っていった。現在でも、WordPerfect を懐かしみ、不満を抱きながら Word を使っている人が多いと言われている。

市場を制覇するのは

単独ではそれほど優れていないソフトウェアでも、他のソフトと組み合わせて、パソコンにインストール済みで提供されれば、ユーザーにとっては面倒が省け、よほどのことがない限り、その製品を使うようになる。そして、ソフトウェア製品のコストは固定費が大半なので、ユーザー数が多いと圧倒的に有利になるため、資金力のある企業は、最初は非常に安く提供してシェアの拡大を図る。このようにして、IT の世界では、ビジネスとしての成功が、製品の優劣以外の要素によって大きく左右される。優れた製品が市場を制覇するとは限らない。

経済学では「悪貨が良貨を駆逐する」というが、IT の世界でも「悪い製品がよい製品を駆逐する」ことがしばしば起きるようである。

「OHM」2008 年 1 月号

【後記】 小生はその後、OS を Windows XP から Windows Vista に切り替えた。Vista では、メール・クライアントは新しく開発された Windows Mail しか使えない。これは最新製品なので、前記のような問題が少しは改善されていることを期待したが、前記の、マルチアカウントの問題、テンプレートの問題、エクスポート／インポート機能の不完全さなどは基本的に同じだった。改善されたのはスパムメールの処理ぐらいだ。マイクロソフトの圧倒的な市場支配力が技術レベルの停滞、いや、退歩をもたらしている一例である。

マイクロソフトの名誉（？）のために付け加えれば、前記の Internet Explorer の印字不良の問題は、最近の Version 7 では改善されているようである。